

<「じいちゃんの海」誕生エピソード>



「じいちゃんの海」は、You-SuKe が初めて書いた海に関する楽曲です。

きっかけは 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災。

3 月下旬、You-SuKe は趣味の山登り仲間たちと三人で、自分の畑で獲れたたくさんの野菜とギターを車に積み、被災地でのボランティアへ参加しました。

その際、最後に訪れた日本の遠洋漁業の発祥地とも言われる港町の宮城県気仙沼市唐桑にて、日中は、瓦礫の中に埋もれていた食器を洗うなどのボランティア活動に参加し、夜には避難所へ赴き、楽曲を披露することになりました。

自分のオリジナルソングを歌っても誰も知らないからつまらないだろうと、誰でも聞いたことがある中島みゆきの歌などをそのとき避難所に詰めていたおよそ 90 人の人々に贈ったところ、次から次へともっと歌を聞かせて欲しいとお願いされ、最後にオリジナルソングの「ばあちゃんの畑」を演奏しました。

歌い終わると、涙まじりに聞いてくれていた人の中から「ばあちゃんの畑があるなら、じいちゃんの海も作って聞かせて欲しい」「どうせならその歌を紅白歌合戦で歌って欲しい」と温かい声をいただきました。

当初、冗談まじりで受諾した You-SuKe ですが、1 週間のボランティアを終えて家に戻った後、その被災地からの宿題を冷静に考えてみました。

埼玉県本庄市で生まれ育った自分には、海は遠い存在。

また、メジャーデビューもしていないのに紅白歌合戦出場など夢物語。

それでも、震災で心の傷を追った被災者の希望を叶えてあげたいという気持ちと、長く険しい復興への道のり、その夢と同じように、自分も夢に向かって挑むことが被災者の励みになるかもしれないという想いが込み上げ、被災地からの宿題ソング「じいちゃんの海」制作を決行することとなりました。

タイトルは決まっていたものの何もイメージのないまま、まずは現地の方から海との生活について聞いてみようと、再び 7 月に宮城県気仙沼市唐桑を訪れ、ボランティア活動に参加したり、漁師の方に時間をもらって話をしたりという時間を過ごしました。

そのとき、船であの大津波から脱したという漁師の方に漁船に乗せてもらうこともでき、2 泊 3 日ながら濃密な時間の中で、海との暮らしを疑似体験。

その後、曲作りを始めたのですが・・・。

今までは、勝手に自分が歌いたい曲を作るだけでしたが、今回は曲の完成を楽しみに待っている人がいるという初めての“嬉しい現実”が逆にプレッシャーとなって襲い掛かかりました。

悩みに悩み考えあぐねる葛藤の日々が二度目の被災地行きから 1 ヶ月経とうかというある日、ギターを手に曲作りをしていると、イメージが突如浮かび上がります。

「♪そこにあるのは海。♪青い青い海。」

曲と同時に詩も自然に湧き上がり、その 1 週間後には「じいちゃんの海」の原曲が出来上がりました。

しかし、それだけでは満足がいかず、詩の内容をもっと充実させたいと 8 月に再度唐桑へ赴き、曲の中で描いた世界観を再確認するという力入れよう曲を完成させました。

You-SuKe は、「じいちゃんの海」にも「ばあちゃんの畑」に共通するメッセージを残したいと願っていました。

それは、後継者問題。

農業もしかり、漁業もしかり。

日本の第一次産業は、従事者の高齢化と共に後継者がいないという社会的な問題は長年あり、その解決の糸口は全く見えていません。

一方、「ばあちゃんの畑」も曲は完成させていたものの、レコーディングはしていませんでした。そこで、2 曲同時にレコーディングし、両楽曲を W シングルとして同時発売して発表することとしました。

音作りには音楽業界で活躍する仲間が You-SuKe の志に賛同し集まっていただきました。ジャニーズの編曲なども手がける近藤芳樹氏がドラム、アレンジ、プログラミングを担当。その友人で数々の有名アーティストと共演しているベーシストの SHInji 氏がベースを、アジア各国を舞台に活躍している GYPSYQUEEN のギタリスト macha がギターを担当。さらに、海外アーティストも手がける PREMIER Engineering のエンジニアの ichiro とメジャークラスのサポートスタッフによって曲が仕上がりました。

今回の震災は日本の有事です。

「じいちゃんの海」もはまた、You-SuKe ひとりの想いだけの歌ではありません。

友人や知人が時間を惜しむことなくコーラスに参加していただき、日本社会の次世代の担い手たちの心のメッセージも詰め込み「じいちゃんの海」は完成しました。

今回、あえてチャリティソングとは銘打っていません。

売上金の一部はもちろん復興支援の募金にも寄付しますが、被災地の復興だけでなく、農業や漁業関連の日本の未来に対して、歌と共に援助できるよう活用していく予定です。